



17年ぶりに可児で開催!

2月16日、文化創造センター・アールで「のど自慢」が行われ、応募総数760通の中から選考・予選を通過した20組が公開生放送で熱唱しました。

◀チャンピオンの尾上真衣さん
手をつなごう（絢香）を熱唱。なんとお母さんも歴代のチャンピオンという、美声のサラブレッド!
「今回は緊張で少し声が震えた。チャンピオン大会へは声を上げて優勝を目指します」と語ってくれました。



▲特別賞の奥田昇さんと永野陽希さん
「幼稚園の頃からの親友。中学生で離れ離れになってしまったけど、友情と弾けるような明るさは永遠です」と元気に話してくれた2人。イタリア語で歌う振り付け有のフニクリ・フニクラで会場も盛り上がりました!

雨にも負けず全力で

2月16日、花フェスタ記念公園で第38回可児シティマラソンが開催され、運営ボランティアスタッフ370人を含む2,152人が市内外から参加しました。

年齢や性別、距離で分かれたタイムレースや、仮装の部を含むジョギングなど全14部門あり、朝9時から順次スタート。雨が降り続くあいにくの天気にも関わらずたくさんの方が参加し、力強く会場を走り抜けました。

また、会場には可児商工会議所青年部により巨大鍋が用意され、みそ味の「光秀鍋」とおしるこの約5,000食が振る舞われました。



①よーい、どん!



②「光秀鍋」づくりの様子



落ち葉拾いの様子

「また来たい場所」に

羽生ヶ丘の市民有志でつくる「明智会」が2月19日、明智城跡で環境整備活動を行いました。同会は明智光秀が生まれた明智城跡の保存・整備を目的に平成7年に結成され、現在の会員は25人。観光客が安全に周遊できるようにと、今回は本丸やその周辺の落ち葉拾いを行いました。同会代表の河崎さんは「せっかく来てくれる人たちを気持ちよく迎えたい。また来たいと思ってもらえたら嬉しい」と思いを語りました。

御朱印ならぬ“御荘印”!!

2月22日、明智城跡とその周辺を訪れる観光客におもてなしなどを行う「明智荘をみつめる会」が光秀生誕の地「明智荘」を訪れた証にと御荘印の販売を始めました。

同会の渡辺会長は「来訪時にはぜひ購入いただき、記念にしてほしい。御荘印をもとに話題が広がり、より多くの方が訪れてくれると嬉しい」と話しました。

販売やイベントなどの開催日時は、同会のInstagramで確認できます。



観光客をおもてなしする様子

可児市の誇りとなるもの

昨年開催の第26回全国山城サミット可児大会で展示された、国史跡美濃金山城跡の2つのジオラマ寄贈式典がそれぞれ行われました。

1月31日、可児工業高校建設工学科の生徒9人が、半年がかりで制作したジオラマについて解説しながら報告、それを受け市長は「制作物そのものも素晴らしいが、これを制作してくれた皆さんが市の誇りです」とお礼の気持ちを伝えました。

2月7日、株式会社パロマ・ジオラマ倶楽部代表の大矢さんが「天守は犬山城に移築されたという伝承があることから、犬山城に似せた夢のある天守を作成した」と目を輝かせながら、ジオラマの解説をしました。

この2つのジオラマは兼山にある観光交流館と戦国山城ミュージアムにそれぞれ展示しています。美濃金山城跡や周辺の散策とあわせてこれらのジオラマをご覧いただくと、戦国時代の可児をより肌で感じることができるのではないのでしょうか。



①可児工業高校生制作（観光交流館に展示）
②パロマジオラマ倶楽部制作（戦国山城ミュージアムに展示）
③（右から）株式会社パロマ 丹羽常務執行役員、大矢さん、市長
④可児工業高校建設工学科の生徒と市長



ミッションに挑戦する中垣さん（向かって左）

図書館に親しみを

2月1日～3月1日、図書館の利用促進や本の探し方などを子どもたちに学んでもらおうと「第2回図書館探検ゲーム」が本館で開催されました。

「探検の書」に書かれたミッションを解きながら、館内に隠された絵本を探すゲームで、初日から多くの子どもたちが参加しました。

中垣結以さん（今渡南小3年）は「ミッションは難しかったけれど、とても楽しかった。今度は友達を誘ってまたやりたい」と話してくれました。

ロボコンで可児っ子が躍動!

「創造アイデアロボットコンテスト全国中学生大会」に出場した中部中3年生で結成されたチーム「中部エヌ」が2月7日、市長へ報告に訪れました。

自作したロボットで箱を拾い、積み上げた数を競う活用部門で2位の好成績。

ロボットの操作を担当した丹羽さんは「自分たちが思いつかなかったマシンが多い中、目標よりも高い順位でうれしかった」と大会を振り返りました。



（左から）近藤さん、丹羽さん、水口さん、市長